

平成 27 年 度 事 業 報 告

【基本理念・基本方針・スタッフ心得】

【今年度当法人の目標】

【施設サービス】

特別養護老人ホーム花みさき（介護老人福祉施設）

地域密着型特別養護老人ホーム花みさき（Ⅱ）（介護老人福祉施設）

【居宅サービス】

浜山高齢者介護支援センター

地域包括支援センター

短期入所生活介護（ショートステイ）

通所介護（デイサービスセンター）

訪問介護（ホームヘルプサービス）

居宅介護支援事業

指定小規模多機能型居宅介護

高齢者向公営住宅生活援助員派遣事業

社会福祉法人 神戸千ヶ峰会
特別養護老人ホーム 花みさき
浜山高齢者介護支援センター
神戸市兵庫区浜中町1丁目16-18

基本理念

一. 利用者の尊厳保持

利用者は、永年にわたり社会の発展に尽くされた方々であり、私たちは、敬愛の念をもち、利用者の個性を尊重し、自立を助け、尊厳を守ることを基本とします。

一. 利用者のご家族と共に

利用者が安心して、自立した日常生活が過ごせるよう私たちは常にサービス・技能・資質の向上に努めます。また、職務を通し、自己の人格を向上させ、利用者と共に生きることを生き甲斐とします。

又、ご家族の協力のもとに、私共スタッフとご家族と利用者様の三者が一つになって楽しく生活していただくことを願っています。

一. 地域との連携

地域やご家族の方々と連携を密にし、開かれた施設づくり、信頼される施設づくりに邁進します。

一. 施設運営の健全化・安定化

利用者の安心で快適な生活の場を守るため、施設経営の健全化・安定化に努めます。

～さわやかな笑顔と気配りを忘れずに～

基本方針

集団接遇から個別接遇へ、生活の場として利用者1人ひとりの残存機能に応じ、自立した日常生活を営めるよう直接介護、精神介護を提供します。

スタッフ心得

1. 花みさきのモットーは明るく・楽しく・美しくです。
2. 利用者様に関する守秘義務を守ります。
3. スタッフはプロです。プロとしての自覚を一人ひとりが持ちます。
4. より良いサービスを提供する為、常に勉強し向上し続けます。
5. 組織の一員として、報告・連絡・相談をします。

今年度当法人の目標

- ①人材確保・育成・定着率の向上
- ②介護報酬改定の難局を乗り切る

結果：

① 人材確保・育成・定着率の向上

27年度人材確保としては、入職者 43 名に対し退職者 31 名であった。人数で見ると増えているが、新人が多いのが今後の課題。しかし育成という面では新人研修、中堅研修、リーダー研修、介護技術研修など内外を問わず積極的に行っている。今後の課題は定着率を高めていくことにある。

② 介護報酬改定の難局を乗り切る

収入は増えているが、支出がそれ以上に増加しており、収支は初のマイナスとなる。

平成 27 年度特別養護老人ホーム花みさき事業報告

1. サービス行事計画

1) 特養部門

①年間行事

- ・特に変更や中止する事なく、毎月の行事を楽しんで頂けた。

②月間（随時）行事

- ・毎月の誕生日会は、大きな事は出来ていないがケーキを出す時にスタッフが Happy Birthday を唄ったり、ご家族が来られている方は一緒に楽しんで頂いた。
- ・散髪は、ご家族やご利用者の意見を聞きながら進める事が出来た。
- ・生け花サークルは、若林さんやボランティアの協力もあり毎月実施出来た。

③ボランティア年間・月間行事

- ・2月中旬から3月末にかけて風邪が3階フロアで流行り、ほほえみ様を中止したりしたが、その他は受け入れする事が出来た。

④災害対策

- ・消防訓練は新館と合同で行ったり、フレールと合同の訓練をしたりと予定通り行えたが、スタッフ入れ替わりも多々あり、消防訓練に参加していないスタッフに周知徹底は出来ていない。

⑤機能訓練

- ・現在ご利用中のご利用者のADLの変化を向上から低下までを5段階に分けてみると、最も多かったのは、“やや低下”が42% 次に“維持”38% 続いて、“低下”8% 後の“やや向上”“向上”“急変による低下”がそれぞれ4% だった。
- ・計画書に関しては、3ヶ月に1度の見直しを行った。
- ・訓練に関しては、H27年11月から全体的に実施回数を増やして行った。一人に関わる時間や頻度は個別に調整した。
- ・訓練内容は、画一的になる傾向があった。
- ・飯原機能訓練指導員と共同で、自立介護技術講習を大半のケアワーカーに受講してもらい、介護技術の向上に努めてきた。アンケートには、講習の継続を希望する声が多かった。現場で活かした知識や技術となるには、長期的に行っていく必要がある。
- ・終末期のご利用者に対してポジショニング、シーティングを実施した。個別にみると褥瘡の悪化などもあり、結果に結びつくところまでは難しいと感じた。
終末期はケアワーカー・医務による支援に頼るところが多く、機能訓練指導員としてはお役に立てることが少なかった。

2) 医務部門

①精神科・内科・歯科の回診に関しては、予定通り行うことができた。

②健康診断では胸部のレントゲンが出来たが、採血は出来ていない、来年度は出来るようにする。

③近隣の病院にて、看取りについての講演や親睦会に参加など親睦を深める事が出来た。

④ノロウイルスやインフルエンザなど、大きな感染症は起こらなかった。

3) 栄養部門

①年間行事食

- ・10月には、フルーツバイキングを実施出来た。3回目なので、スムーズに行えたと思う。
次年度は食事バイキングの実施に向けて取り組みたい。

②月間行事

- ・予定通り行えたが、今後は摂食嚥下機能の低下した方にも楽しんで頂ける特別おやつも検討したい。

③栄養管理

- ・介護や看護との連携による栄養ケアマネジメントにより、個々に応じた栄養管理で体調改善や満足度につながるよう努めた。

2. 人的体制計画

1) 特養部門

①

- ・外部研修に何名か参加する事が出来、レベルアップ出来たスタッフいたが、内容をフィードバックする事は出来ていない。
- ・機能訓練指導員による研修には、対象者全員が参加した。
- ・内部研修なども実施、日にちの変更はあったが毎月予定通り行えた。勤務の関係で参加出来なかったスタッフには資料を渡し対応したり、研修担当者にて個別に研修を実施したりし対応した。

②

- ・新人職員には、その都度個人面談を行い、個々に合った指導や速さで育成した。
日勤業務以外は業務の流れを覚えてもらうより、日勤帯で覚える事が出来ない部分を各業務をこなしているスタッフに付け覚えてもらうなど、育成方法を変えて個々のレベルアップに努めた。
- ・12月にはEPAを2名受け入れ、戸惑いながらも部署全員で少しずつ教える事が出来、部署にとっても良い経験になったと思う。
- ・スタッフが安定することなく夜勤者が減るばかりで、安定した勤務体制を作る事は出来なかった。

③高齢者虐待については、内部研修を行った。勤務上参加出来なかったスタッフには、資料渡し対応した。

ご利用者の状態を把握し取り組んでいるが、新しいスタッフも増えたので常時徹底していきたい。

④ご家族から意見を聞き出せる環境を築けるように日々コミュニケーションをとったり、カンファレンスで

意見を聞いたりしケアに活かせるようにしている。

2) 医務部門

①人材の確保としては入職そうそう退職したスタッフもいたが、大きな変化はないものの常時4名の確保は難しかった。

②シルバーハウジングへの訪問はなかったが、他の病院や在宅の方との親睦を図る事が出来た。

3) 栄養部門

- ①厨房職員体制が不安定な中、最低限の取り組みはできたと思う。今後は見落としがちな情報の共有や改善策の検討など話し合いの時間も出来るだけ作り、質の向上へ繋げたい。

3. 環境・整備計画

1) 特養部門

- ①設備や備品などの不具合は早急に報告し対応出来た。

2) 医務部門

- ①地域医療機関の勉強会や研修会に出来る限り参加し、専門性を高めた。

3) 栄養部門

- ①内容の充実に向けて検討を重ねたが購入には至らず。次年度には賞味期限で更新が必要なものも多いので併せて用意したい。
- ②年間を通して食中毒及び感染症予防に注意して作業を行ったが、厨房が起因の異物混入もあった。今後も検証と対策を講じて衛生管理に努めたい。

4. 数値目標

1) 特養部門

- ①実数50名は常に意識し48名（6ヵ月継続）は確保出来るようにしている。
面接に定期的に行くようにしているが、別の特養に入られタイミングが合わなかったり、医療的な事が随時必要であったり、身元引受人が少なかったりで待機者の充実を図る事が出来なかった。
そのため、急変などで永眠された時などスムーズに入所につなげる事が出来なかった。

2) 医務部門

- ①入院は15名ほど、通院は泌尿器科が多かった。
緊急対応では、Dr・ご家族とカンファレンスを通じ話し合いができスムーズに行えたと思う。

3) 栄養部門

- ①食欲の低下がみられる方については、介護や看護と協力して好きな物や食べやすい内容に変更して対応できた。

5. 年間目標

1) 特養部門

①年間目標「すべては御利用者の笑顔のために！！」をあげた。スタッフの出入りが多くあり、随時業務におわれている状態で、職員全員に説明し周知徹底出来ているとは言えないので達成感としては低い。

2) 医務部門

①年間目標「感染予防」をあげた。ノロウイルス・インフルエンザ・その他の感染はなかった。予防できた。

3) 栄養部門

①全体としてはもっと出来る事があったように思う。今後も給食委員会や検食簿を上手に活用してサービスの向上につなげたい。

平成 27 年度 花みさきⅡ地域密着型介護老人福祉施設事業報告

1. サービス行事計画（事業計画）

- ①平成 27 年度介護報酬改定に伴い、基本報酬が下がったことは大きな痛手であったが、加算の算定要件が変わったことにより、報酬単価の高い『日常生活継続支援加算』を算定することができた。『日常生活継続支援加算』はこの度の改正で、23 単位/日→46 単位/日に報酬単価が上がった加算で、昨年度まで算定していた『サービス提供体制強化加算』では 18 単位/日なので大幅な減収を抑える効果はあった。
- ②ご家族との信頼関係構築に向けて、状態変化に合わせて細目な連絡を取るよう心がけ、面会時などに話をするなど意識して取り組んでいる。遠足や夕涼み会等大きな行事では事前案内をして、ご参加いただいているが、毎月の行事予定等のお知らせについてはできていないので次年度への課題である。
- ③『日中オムツゼロ』『個別機能訓練』については、継続して取り組んではいるが、ご入所者の状態変化による ADL 低下や、ターミナルケア対応のご入所者が増えたことで、取り組み本来の意味が少し薄れてきているように感じられるところがあるので、再度見直しをしながら修正していきたい。
個々の思いに寄り添う関わりや、丁寧な言葉づかいについては、全体的に意識して取り組んでいるが、十分ではないので継続の課題としていく。
- ④ご入所者、ご家族の気持ちに寄り添った看取り介護については、平成 27 年度 4 名が退所となり、内 2 名を施設で看取らせていただいた。両名とも長く花みさきをご利用いただいた方で、状態が悪くなってからもこまめに連絡をしてご家族の思いを聞きながらケアを進め、よい形で最期を看取ることができた。
今後も安らかな最期を迎えられる場として選ばれるよう努めたい。
- ⑤地域交流の面では、特別積極的な取り組みができなかったが、運南保育所との交流については、6 月と 12 月の交流会に加え、合同の避難訓練を実施し、継続して繋がりを持つようにしている。来年度はより関わりを増やせるよう提案していきたい。
- ⑥年間行事の中で、特筆すべきは夕涼み会で、花みさきⅡ全体で行う主要な行事の一つとして確立してきている。今年度は、日よけシートで屋根を作り、スタッフの子供達も参加し、花火をする等、様々なアイデアを形にできた。次年度以降も継続して良いイベントになるよう努めたい。
- ⑦各種会議については、定期開催ができています。今年度より開始した全体会は、花みさきⅡ全体の職員を対象に開催し、現状に対する不安や不満、希望などについて、ざっくばらんに話し合う場として年 2 回実施した。毎回全職員の 3 分の 2 が集まっており、今後も継続して実施していけるよう会の内容等も考えていきたい。
- ⑧ボランティアについては、毎月定期で来ていただいていた浜山婦人会のボランティアが今年度で終了となり、個人のボランティアもそれぞれ体調等を理由に終了となるなど、次年度以降新たなボランティアの受け入れも検討していく必要がある。
- ⑨防災については、訓練は実施できたが、マニュアルの整備や必要備品の確保などできていない課題は多く残っている状態。
- ⑩医務部門については、人員不足の中、小規模多機能含めた健康管理・服薬管理に努め、ターミナルケアにおいても医療面でしっかりとサポートすることができた。

2. 人的体制計画

- ①職員がやりがいを感じ、その思いを実現していける環境づくりを進めるために、全体会の開催やフロア間での人事異動、レクや業務での連携等の取り組みを実施するなど着実に前進できている。
- ②人員確保の面では、ユニット毎の人員配置を確立する上では、まだ十分ではないため、引き続き補充は必要。ただし、今年度入職した職員達が着実に成長し定着できている。
- ③内部研修は、ほぼ計画通りに実施することができ、内容もマンネリ化しないよう考慮して実施できた。今年度は、法人全体での自律介護技術研修が始まり、介護職員にとって良い学びの機会となった。

3. 環境・整備計画

設備面の不具合には迅速に対応できたと思う。ただし、PHSの不注意による故障等、丁寧な取り扱いを意識できていなかった点で反省すべき部分がある。

4. 数値目標

入退所は前年と変わらないが、入院者が多く、ほぼ毎月入院による空きがあったために、入所率97%の維持は達成できなかった。

平成 27 年度 地域包括支援センター事業報告

1. サービス行事計画

- ①総合相談窓口としての機能を高めるよう努力する。
今年度においても、要支援の対象者のみならず、問題の複合化されている家族に対しても積極的に関わり、適切な機関に結びつけるよう努力してきた。
- ②包括的・継続的ケアマネジメントとして求められる機能の構築をする。
地域のケアマネジャー等からの質問・相談等を真摯に受け止め、できるだけ迅速且つ適切に各関係機関に繋げるよう努力した。
- ③権利擁護事業への更なる取り組み（認知症高齢者支援体制の構築）。
個別のケースではそれぞれが対応している。
- ④介護予防事業の住民への普及・啓発
今年度も地域の給食会などに参加し、介護予防事業の普及・啓発に努めてきた。
- ⑤地域の抱える問題をセンターも共有するため、地域主催の給食会や喫茶へ定期的に参加し交流を深める。
今年度も積極的に地域の給食会などに参加し、民生委員や友愛ボランティアのみならず、地域住民の方々と交流を深めることができた。特に今年度はセンター職員全員で作り上げた寸劇「オレオレ詐欺に騙されな
い！」を披露し、好評を得た。
- ⑥介護者相互の交流促進に寄与するとともに各団体との連携につながる場としての介護リフレッシュ教室を
今後も継続し開催する。
今年度も年6回のペースで介護リフレッシュ教室を開催してきた。大半は交流会形式で2回は講師を招いての勉強会形式にしている。介護者の心身共にリフレッシュすることに有効な場が提供できている。
- ⑦『見守り応援団(ハートネット)事業』として登録した店舗に定期的に働きかけセンターとの関係性を構築する（定期的な見守り会議などが開催できるための下準備期間）。
見守り応援団登録の店舗へは毎月定期的に訪問し関係性構築につとめてきた。登録店舗数も57に増えた。
- ⑧『見守り強化事業』を継続して取り組み、地域の独居世帯、老々世帯の洗い出しを行う。
今年度も見守り強化事業として、独居や老老世帯を訪問し安否確認を行った。
- ⑨地域の各介護保険事業所との連携に努める。
今年度は圏域内の居宅介護支援事業所所属のケアマネを中心に定期的に集まる会を開いた。年度後半からは事例を上げてもらい、事例を通して地域を見直すという機会を設けた。
- ⑩見守り推進員の情報網を中心に、センターの活動をより地域に根ざしたものとする。
見守り推進員を中心とし地域との連携を少しずつであるが進めてきているところである。

2. 人的体制計画

- ①センター職員間での意思疎通を深め、情報を共有する。
毎朝のミーティングを中心に、事あるごとに話し合い、情報の共有に努めた。
- ②チームアプローチの体制を促進する。
特に困難な事例では、他職種との連携を図り、一人で抱え込まないよう心がけた。
- ③各専門職種がそれぞれの研修に積極的に参加し、自己の専門性の向上に努める。
時間の許す限り研修には前向きに参加し、自己の研鑽に努めた。

- ④関係機関とのネットワーク構築に努める。
個別のケースを通し、各関係機関（医療機関、施設、行政、事業所、民生委員等）との連携を図った。
- ⑤自治会、ボランティア等、地域のインフォーマルサービスの発掘をする。
推進員を中心にサークル活動の立ち上げ等、インフォーマルサービスの発掘に努力した。
- ⑥効果的、効率的な介護予防プランの作成に努める。
利用者の意向を中心として、その目標を実現できるようなプラン作成を心がけた。
- ⑦特定高齢者等へのフォローと適切なサークル活動等への橋渡しを図る。
保健師を中心に特定高齢者への電話でのフォロー、アプローチを図るなどした。

3. 環境・設備計画

- ①職場環境の整理整頓に努める
適宜職場環境の整備に努めた。
- ②センター内の必要な備品等の補充、完備（適宜）を行う
細かな事務用品などは適宜補充している。
- ③センターとルームとの人的交流を促進する
毎朝のミーティングでは情報交換が行えている。

4. 数値目標（予防給付）

平成 27 年度は平均 230 件超えを目標数値としたい。
予防給付管理数（H27.4～H28.3）月平均 230 件。当初目標としていた 230 件をかろうじてクリアできた。
今後は予防給付のサービス提供体制が変わることもあり、給付管理数の動向は不透明な要素もあるが、28 年度も同等の数字を残したい。

平成27年度 短期入所生活介護（ショートステイ）事業報告

1. サービス行事計画

1) 年間行事について

予定通り行うことが出来た。利用者様にも楽しんで頂けた。

2) 月間行事について

①毎月の誕生日会は小規模ではあったが計画通り行えた。誕生日会では写真入りの誕生日カードと歌を歌い喜んでいただけた。

②毎月1回の散髪サービスについては好評であった。問い合わせもあった。

3) 随時行事について

①年間を通して人員不足もあり、地域行事への参加がほとんどできなかった。

2. 人的体制計画

1) 個人計画の立案とモチベーション維持を図る。

①定期的な個人面談を予定していたが、十分に時間がとれず聞き取りが出来なかった。

②必要最低限の内部・外部研修は行うことが出来たがフィードバックまでは出来なかった。

2) ケアワーカーの勤務体制を充実させ事故等を減らす。

①人員配置については年間通して充実できなかった。研修後の勉強会も予定していたが、出来なかった。内容のフィードバックが出来なかった。

②ヒヤリハット報告書を基に職員会議の中で毎月検証を行い、共通認識し改善に向けて具体的な対応を考えることが出来た。

3. 環境・整備計画

①人員不足の問題もあり、必要最低限のサービス提供しか行えなかった。

ご自宅で過ごされる事を念頭に、歩行の機会を取り入れる等ADLを考えながらご利用者様への対応は出来た。

②ご本人・ご家族の希望を取り入れながら廊下で散歩という形で歩行するなど、意識して生活リハビリを取り入れた。

③楽しみや生きがいというところまでを考えた個別のニーズに即したレクリエーションができなかった。

4. 数値目標

毎月平均 95%以上の利用率を達成する。

目指すは 100%であったが月平均 81%という結果であった。

長期利用・定期利用のご利用者の特養入所などが続いており利用率は落ち込んでいる。

新規のご利用者については定期利用に繋げたい。

5. その他

福利厚生の実施をはかることができなかった。

平成 27 年度 通所介護（デイサービスセンター）事業報告

1. サービス行事計画

1) デイサービス 年間・月間行事について

①年間行事について、予定通り行事を行うことが出来ました。

②月間行事について、

- ・各曜日毎、月一回のミニ喫茶を実施し、ご利用者間の交流を図ることができました。
- ・お誕生日会について、随時お誕生日会を行うよう今年度も取り組みました。日頃の様子が分かりやすいよう、写真を一緒に渡させて頂くことで自宅でも雰囲気が伝わりやすいよう対応させて頂きました。
- ・散髪について、散髪担当職員と連携し、ご利用者、ご家族の希望に合わせ全曜日で対応することができました。

2) レクリエーションの充実について

既存の年間行事、月間行事だけでなく、ご利用者にアンケートをとりレクリエーション（焼きそば、お好み焼き、クレープ等）を提供することができました。

また、パンの移動販売について購入希望のご利用者との定期的購入する機会を持つことができました。

3) 地域福祉への参画について

地域で活躍されているコーラスや手話のボランティアの方々にも来て頂き、活動を披露して頂ける機会を設けることができました。また、デイサービスだけでなく、他事業所からもご利用者に参加して頂き、地域の方と触れ合う機会を設けることが出来ました。

4) 災害時の備えと感染予防について

園内での全体研修や内部の研修を通し、緊急時の避難経路への誘導、対応を確認しました。

食中毒、感染予防については、下半期で園内研修を行うことができました。今後も予防に努め、感染発生時には他部署との連携、居宅等への連絡について、対応が行えるよう努めて行きます。

2. 人的体制計画

1) 職員の意識の向上について

笑顔で挨拶、受容、傾聴といった丁寧な対応を心掛けていましたが、職員の勤務体制上、忙しい雰囲気をご利用者に伝えてしまう場面も見られたため、今後、落ち着いて取り組めるよう努めていきたいと思えます。

認定自律介護技術講習を受講した機能訓練指導員が講師となり、デイサービスだけでなく他部署の職員方にも学ぶ機会を持つことができました。このような機会を通して、介護の専門性について各自が振り返り今後どのように取り組むことが大切か、考えるきっかけに出来たと感じました。

2) ご利用者の機能の維持向上について

個別機能訓練の需要も伸び、機能訓練指導員と共に、機能の維持、向上に努めました。要支援の方々の需要もあり、週に一回少人数でのリハビリ（グループリハ）も定着し、リハビリ助手に特化した職員から新たなリハビリの内容を構築し、対応を行うことができました。要支援の方々が総合事業に移行するにあたり、グループリハビリをどのような形で行っていくか、次年度で検討予定です。

3) 人的充実について

今年度は比較的安定していましたが、次年度より職員の退職も重なるため、より安定してサービスが提供できるよう人的体制の確立に努めたいと思えます。

3. 環境・整備計画

1) 環境整備について

施設内の庭で作物をご利用者と作る機会を持つことが難しい状況でした。ご利用者の動線を確保し、個別でご利用者に関わることができるよう、テーブルの配置やソファの活用を行い、環境の改善に努めました。

4. 数値目標達成度について（26年度→27年度）前年対比

- ・ 4月 797→792名（99%）
- ・ 5月 810→775名（95%）
- ・ 6月 768→804名（104%）
- ・ 7月 803→773名（96%）
- ・ 8月 759→802名（105%）
- ・ 9月 747→806名（108%）
- ・ 10月 806→850名（105%）
- ・ 11月 756→777名（102%）
- ・ 12月 716→825名（115%）
- ・ 1月 679→720名（106%）
- ・ 2月 679→704名（103%）
- ・ 3月 772→777名（101%）

通常規模（750名/月）の営業でしたが、前年対比は平均で103%の増加がみられました。一日平均30.45名と平均30名の目標は達成できました。

- ・ 4月受け入れ 4→0名
- ・ 5月受け入れ 3→1名
- ・ 6月受け入れ 3→3名
- ・ 7月受け入れ 3→4名
- ・ 8月受け入れ 2→0名
- ・ 9月受け入れ 3→1名
- ・ 10月受け入れ 2→1名
- ・ 11月受け入れ 2→1名
- ・ 12月受け入れ 2→0名
- ・ 1月受け入れ 2→1名
- ・ 2月受け入れ 4→1名
- ・ 3月受け入れ 1→1名

前年に比べ、新規ご利用者の受け入れ数は減少しています。登録人数は少ないものの実利用人数が多く、稼働率が上がっているため、受け入れが難しい状況があります。急な入所、キャンセルに備え、少しずつ登録人数を増やして行けるよう努めていきたいと思っております。

5. その他

職員間の交流を図る為、忘年会や食事会等に参加することができました。

次年度以降も積極的に交流を図れるよう、新たな企画も含め、努めていきたいと思っております。

平成 27 年度 訪問介護（ホームヘルプサービス）事業報告

1. サービス行事計画

- ①月一回の会議を開催する。
登録ヘルパー含めた全員参加での会議は出来ませんでした。
- ②週一回のミーティングを開催する。
課長と常勤ヘルパー参加のミーティングは開催出来ました。
- ③年二回のヘルパー研修を開催する。（登録ヘルパーも含む）
マニュアルを作成し時間をとって三回（虐待・感染予防・事故防止対策）の研修を実施しました。
- ④訪問介護部門内でのサービス行事は実施予定ありませんが、他部署の行事の時は可能な限り協力する。
行事の協力はありませんでした、人員配置の困難な部署を応援しました。

2. 人的体制計画

- ①サービス提供責任者は各部署のリーダー、ケアマネとの連携を図る為、報告連絡相談に努める。
部署にかかわらず報告・連絡・相談を実施しました。
- ②常勤ヘルパー及び登録ヘルパーを増員し新規獲得に繋げる。
人員の確保も出来、新規は断らずに対応が出来ました。
- ③ヘルパーの接遇マナーを向上させる。
ミーティングなどで、各ヘルパーに接遇マナーの重要性を理解して頂き、意識の向上が出来ました。

3. 環境・設備計画

- ①自転車の整備、点検を頻回に行い安全に走行するよう呼びかけ事故が無いようにする。
修理不能な自転車は廃棄し、新しい自転車を 2 台購入して頂きました。
- ②担当を決め、事務所内の清掃を行い清潔保持に努める。
衛生担当者を決め事務所内の清掃をしました。

4. 数値目標

27 年度目標 **（前年度の 1 割増）** 利用者数（81 名）・活動時間数（501 h）・単位数（155.042）
27 年度実績 利用者数（75 名）・活動時間数（525 h）・単位数（164.776）

5. その他

特になし

平成 27 年度 居宅介護支援事業報告

1. サービス行事計画

①月 1 回 会議を開催する。

毎月第 1 金曜日に全職員参加の会議を開催。各ケアマネの担当ケースの動きに関する情報共有、新規利用者様の報告、対応に苦慮しているケースの相談、担当ケアマネ不在時の対応等の伝達、認定調査状況の報告、研修報告、サミット報告等を行った。

反省点として、数ヵ月に 1 回の事例検討は今年度も行うことはできなかった。

②週 1 回 会議を開催する。

毎週金曜日に各ケアマネより動きのあったケースの状況報告、新規利用者様の対応状況、問題が起きている利用者様への対応方法や業務について困っている事等の話し合いを行った。

③地域ケアネットワーク定例会や研修等に参加し、他事業所との連携・情報交換、ケアマネとしての質の向上を図る。

地域ケアネットワーク定例会、ケアマネ研修に可能な限り参加することができた。

④地域の方々の要望に速やかに対応できるように、あんしんすこやかセンターとの連携を図り情報交換を行う。

必要時あんしんすこやかセンターに相談し対応できた。特に新規依頼は認定結果が不明な場合でも、あんしんすこやかセンター職員と同行し情報共有を行うことで、認定結果が要介護になった場合に対応できるよう努めた。

⑤法人内の各事業所との連携を図り、利用者様が安心して生活できるよう支援方法を一緒に検討していく。

利用者様の身体状況や生活状況の変化に応じての支援方法を一緒に考えることも多くなっている。ただ利用者様が法人内のサービス利用を希望されていても、職員体制が整っていない事や利用の必要性を認めてもらえず利用を断られたり、特にロングショートが利用できない事で他事業所に依頼せざるを得ない利用者様もおられた。

2. 人的体制計画

1) 24 時間対応することができる連絡体制を確保する。

当初は常勤が輪番制で携帯電話を持ち、連絡が取れる体制を確保していたが、現在は管理者が時間外は持つ形に変更している。

2) 介護支援専門員現任者研修、主任介護支援専門員研修を受講する。

新規認定調査員新規研修 1 名受講

介護支援専門員更新研修 3 名受講

認定調査員現任者研修 2 名受講

介護支援専門員現任研修 1 名受講

主任介護支援専門員スキルアップ研修 1 名受講

神戸市予防給付ケアマネジメント従事者現任研修 2 名受講

3) 特定事業所 (Ⅲ) の基準である主任介護支援専門員 1 名以上、常勤介護支援専門員 2 名以上の常時配置を図る。

特定事業所加算 (Ⅲ) の基準は満たしている。

* 現在常勤 3 名が主任介護支援専門員の資格あり。

4) 専任の認定調査員 3 名以上を配置。

非常勤の専任認定調査員 2 名は継続して配置できているが、常勤の調査員がケアプランを 30 件以上担当しているため調査ができない状況となり、急遽新館より応援で認定調査をして頂いた。調査員の補充が必要である。

3. 環境・設備計画

①自転車の整備、安全な走行を心がける。

自転車の大きな故障はなく安全に利用できている。

②遠方のケース、困難ケース対応、1 人あたりの担当件数が増えたこともあり、業務の効率化の為施設の車をお借りする時は、他部署の迷惑にならないよう連絡調整を行う。

施設の車をお借りする時は、他部署への迷惑にならないよう連絡調整ができている。

4. 数値目標

介護給付の新規依頼はよほど遠方以外は断らない。予防給付は介護給付件数にもよるため、随時受託できるか検討していく。

常勤 1 人 35 件×3.3 人=月 115 件を目標としていたが、実際非常勤の退職もあり、平均月 91.5 件となっている。

新規依頼も多いが常勤 3 名以外の定着率が悪く、ケアプラン担当のケアマネ補充が必要な状況。

5. その他

①ご利用者が安心、信頼して相談に訪れる事ができる窓口になるように努力していく。

週 1 回及び月 1 回利用者の情報交換を行い、電話や来訪者の対応ができるようにしてきた。

②個人計画を立案し、個々の生活と業務意識の向上を図る。

計画の実行に向けて、個々の意識の向上が図れた。

③明るい職場が維持できるよう、親睦会・食事会等を開く。

頻度は少ないが、随時部署内での食事会を行っている。

平成 27 年度 小規模多機能型居宅介護事業報告

1. サービス行事計画(事業計画)

- ①平成 27 年度介護報酬改定に伴い、基本報酬が下がったことは大きな痛手であったが、この度の改正で新たに設けられた『訪問体制強化加算』『総合マネジメント体制強化加算』(各 1,000 単位/月)、報酬単位が 500 単位/月→640 単位/月に改定された『サービス提供体制強化加算』をそれぞれ算定できた。さらに看護職員の欠員で、今まで算定していた加算が取れなくなったが、新設された 480 単位/月の(Ⅲ)を算定できたことで大幅な減収を抑えることができた。
- ②ご利用者の約 9 割が、日常生活圏域内に住まれており、約半数が独居であるが、ご家族や地域の協力を得て、訪問と通所を合わせながら、自宅での生活を維持してもらえよう支援している。
- ③通所されたご利用者の退屈な時間の緩和を考え、体操やリハビリを意識したレクリエーションを実施するように努めている。散歩やドライブも機会を作って実施している。
- ④地域交流の面では、近隣の保育所や地域のイベントに、ご利用者と共に積極的に参加できている。又、運南保育所とは施設行事として 6 月と 12 月に交流会を実施するなど交流の機会を増やしていている。
- ⑤年間行事の中で、特筆すべきは夕涼み会で、花みさきⅡ全体で行う主要な行事の一つとして確立してきている。今年度は、日よけシートで屋根を作り、スタッフの子ども達も参加し、花火をする等、様々なアイデアを形にできたと思う。次年度以降も継続して良いイベントになるよう努めたい。
- ⑥各種会議については、定期開催ができています。今年度より開始した全体会は、花みさきⅡ全体の職員を対象に開催し、現状に対する不安や不満、希望などについて、ざっくばらんに話し合う場として年 2 回実施した。毎回全職員の 3 分の 2 が集まっており、今後も継続して実施していけるよう会の内容等も考えて行きたい。
- ⑦ボランティアについては、毎月定期で来ていただいていた浜山婦人会のボランティアが今年度で終了となり、個人のボランティアもそれぞれ体調等を理由に終了となるなど、次年度以降新たなボランティアの受け入れも検討していく必要がある。
- ⑧防災については、訓練は実施できたが、マニュアルの整備や必要備品の確保などできていない課題は多く残っている状態。

2. 人的体制計画

- ①職員がやりがいを感じ、その思いを実現していける環境づくりを進めるために、全体会の開催やフロア間での人事異動、レクや業務での連携等の取り組みを実施するなど着実に前進できている。
- ②昨年度から訪問にも力を入れて実施しており、今年度も継続して取り組んでいるが、今年度ご利用者数が増えたことで新たなニーズが増え、そのニーズに応えるにはもう少し人員補充が必要である。
- ③内部研修は、特養と合同でほぼ計画通りに実施することができ、内容もマンネリ化しないよう考慮して実施できたと思う。今年度は、法人全体での自律介護技術研修が始まり、介護職員にとって良い学びの機会となったと思う。
小規模多機能連絡会主催の勉強会に、現場スタッフから一人ずつ参加することができ、新たな知識を得たり、他事業所との交流にもなった。

- ④医務部門としては、看護職員の人員不足の中、特養看護師との連携で、ご利用者数が増える中でも、健康管理から独居ご利用者の服薬管理まで対応することができた。

3. 環境・整備計画

- ①フロアの環境整備については、意識して取り組み始め、以前に比べ少しは改善しているが、「ご利用者が快適に過ごせる空間」という観点ではまだまだ改善の余地がある。PCデスク周りも書類やメモ等が散乱している状態があり、整理整頓の意識を高めなくてはならない。

4. 数値目標

- ①登録者数 25 名の確保という目標については、年間を通じて維持することができた。今後もこの数値を維持できるよう意識して取り組んでいきたい。

平成 27 年度高齢者向公営住宅生活援助員派遣事業報告

1. サービス行事計画（事業計画）

1) 安否確認

- ① 基本的人権を守り秘密を厳守し、笑顔、誠意で見守りました。
- ② 入居者の新しい情報を訪問等の時に得て常に更新しました。

2) 行事の取り組み

- ① コミサボ事業… **おりがみの会、ぬり絵の会、新聞ちぎり絵**、を毎月 1 回、**ふらふらダンスとお茶会**は毎月 2 回（8 月浜山婦人会給食会 2 回、浜山ふれあいまちづくり協議会（ふれあい演芸大会との交流会で披露）、6 月より**もの忘れ予防教室**を毎月 1 回実施。地域主催のトールペイントに参加し地域住民とのつながりを深めました。
- ② フレール自治会… 喫茶、カラオケ交流会に参加し手伝えました。

3) 生活相談

特にありません。

4) 家事支援

特にありません。

5) 緊急時の対応

緊急発報は 1 年間で 3 件発生し 3 件ともセンサー（水連続）本人難聴の為でした。宿直、L S A 施設職員が瞬時に対応し安全を確認しました。

2. 人的体制計画

変更はありません。

3. 環境・設備計画

特にありません。

4. 数値目標

特にありません。

5. その他

特養生花サークルを支援しました。
特養ふらふらダンスを毎月行いました。